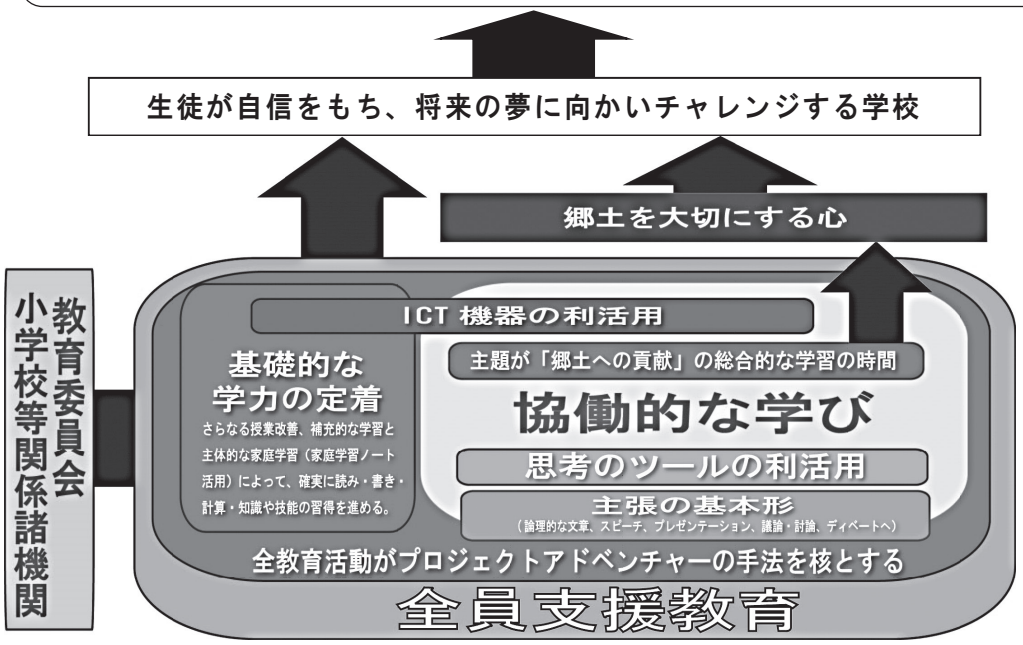
奥多摩中学校　特色ある教育活動

奥多摩の教育
第221号
発　行
奥多摩町教育委員会

教育目標

― 郷土を大切にし、21世紀をたくましく生きる生徒の育成を目指して ―

≪校訓≫　「協働」　共に学び、考え、実行する



【奥多摩中学校の教育活動の構造図】

令和２年８月１日現在

児童数	148名
生徒数	68名
教職員数	46名

(1) 生徒の心に好奇心の灯をともす

～生徒の将来の姿に思いを馳せる～

「平凡な先生はただ話す。良い先生は丁寧に教えてくれる。優れた先生はやってみせてくれる。偉大な先生は心に好奇心の灯をともす。」W.A.Wardの言葉

生徒たちは、本能的に向上心をもち知識・技能・能力・態度を身に付けようとして学校に来ます。人と学ぶ楽しさと醍醐味に気付かせること、そのことにより生徒の学習意欲や強い心、さらに人に貢献する喜びとチャレンジ精神を高めることを目指します。そして人とのつながりを大事にして「生徒自身が学ぶ」という学校の機能を最大限に発揮することを大切にします。生徒に、日々の学習や体験が将来の自分にとってどういう意味があるのかを、中学生なりに理解させ、幸せになる力を伸ばしていきます。

(2) 全員支援教育

全員支援教育とは、全員を理解する教育であり、本校のすべての教育活動を支えるもので、特別支援教育の考え方や手法で、全生徒を対象に、支援を行うというものです。特別支援教育校内委員会では、課題や困り感をもつすべての生徒を対象に、情報共有を行い、具体的な支援の仕方を協議し、全教職員が共通理解のもと、適切に支援を行えるようにしています。また、教育活動にユニバーサルデザインの考えを取り入れることを進めています。

(3) 地域における学校文化を大事にする

学校は、生徒にも保護者にも魅力的なところであることを常に考えています。奥多摩だから、少人数だからできることを充実し、先取の精神で学びの質を深めることを本校の学校文化とします。「この学校に通わせたい」と思える学校像を目指します。また郷土を愛する心は、郷土で過ごした良き体験、共に育った仲間を通して育まれるものです。学校教育の目標を具現化していくとともに、保護者、地域の協力のもと、「郷土の中で育つ自分っていいね」の心を育むことを大事にします。

古里小学校の特色のある教育活動

教育目標「命を大切にして　共に輝き　生きていこう」 かしこく　なかよく　たくましく

古里小学校の学校再開後の様子を紹介します。学校は、児童の元気と笑顔でいっぱいです。児童は新しい生活様式の中、学習に学校生活に一生懸命取り組んでいます。そんな児童の心と体にストレスがないかどうか、保護者面談やスクールカウンセラーの全員面接、医師の定期検診で確認し、全職員で日々児童を見守っています。

＜学習の取組＞

古里小学校では、夏季休業の短縮や行事の見直しを行い、各学年の学習が十分にできる授業時数の確保に努めています。

各教室では黒板とICT機器を併用し、視覚的に分かりやすく効果的な授業を展開できるようにしています。今後、タブレット端末が増設される予定があり、調査やまとめに、さらに活用しようと楽しみにしています。

1年生の音楽　マスク着用で歌とリズム遊び

相手の陣地にキラキラボールを投げるゲーム

＜体力向上の取組＞

今年度は、年間を通して体力向上の取組を行っていきます。6月の体力強化旬間では、昼休みの校庭を使って「キラキラボール投げ」「じゃんけんグリコ」「ねことねずみ走」を行いました。

今後は、運動会の練習やなわとび、持久走と、児童が体を動かす機会を計画的に設けて、体力向上を図っていきます。

＜図書室の取組＞

古里小学校の図書室では、学校休業中に本をたくさん読んでもらえるよう、課題提出日に5冊借りられるようにしました。学校再開後は読書ノートの導入や季節のイベント（7月は「廊下に金魚を泳がせよう」）を行い、図書室に行くと本を借りたくなるような仕掛けを用意しています。古里小の児童が本をたくさん読む子に育つようさらに環境を整えていきます。

整えられた図書室　季節を感じます

氷川小学校の特色ある教育活動

氷川小学校の教育目標は、「自ら進んで学ぶ子」「仲良くやさしい子」「健康で明るい子」の３つです。特に１つ目の「自ら進んで学ぶ子」は、４月から始まった新学習指導要領においても、子どもたちに身に付けさせるようにと強く求められている資質です。

氷川小学校では子どもたちが楽しみながら学ぼうと意欲をもち、さらに将来必要とされる力を身に付けるために、どこよりも早くプログラミング教育に取り組んでいます。

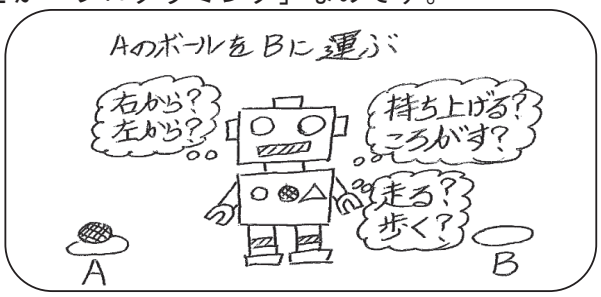
プログラマーになるわけじゃないんだから、プログラミング教育なんて必要ないんじゃない?

専門的な知識を身に付けることがプログラミング教育の目的ではありません。

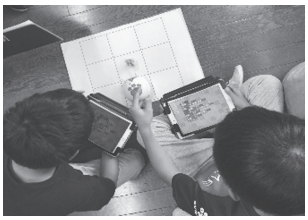
他の教科にも役立つようなこと、どの仕事についても役立てられる力を身に付けようとするのが、いま求められているプログラミング教育です。プログラミング教育を通して身に付く２つの力と、その力をより高めるために氷川小で工夫していることをご紹介します。

プログラミング教育で付く力　その１
段　取　り　力

仕事でも趣味でも、何かをやろうとしたら「目標」を立てますね。そして、その目標を達成するために必要な手順を考えると思います。効率よく達成するためには、一つ一つの手順を工夫したり、場合によっては順番を入れ替えたりします。その目標達成までに計画を立てることが「プログラミング」なのです。



一見単純な作業も、一つ一つの動作に分けると多くの要素が組み合わさっています。子どもたちはパソコンやロボットカーに命令を組み合わせて、目標を達成しようと試行錯誤をし、その過程で段取り力を鍛えています。



プログラミング教育で付く力　その２
コンピューターを活用する力

今はどのような仕事でもコンピューターを活用する場面が増えました。以前はパソコンが主流でしたが、最近ではスマホやタブレットの性能が向上し、手軽に高度なことができるようになりました。このような機器を使えるようになることは必須と言っても過言ではないと思います。

氷川小学校では児童１人に１台ｉＰａｄがあり、プログラミングを行う際に実際に操作をしながら操作に慣れ親しんでいます。

また、プログラミング教育だけではなく、各教科の学習においても効果的に活用を図っています。今年度はコロナウィルスへの対応から密になっての話し合い活動ができないので、タブレットを活用して学習中に情報交換を図ることなども進めています。

これまでの取組をさらに良いものにし、周囲にも広げていけるよう、保護者や地域の皆様と一緒になってがんばっていきます。ご理解ご協力のほど、よろしくお願いします。

奥多摩町の特別支援教育

特別支援教育とは、障害のある児童・生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、そのもてる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うものです。

また、特別支援教育は、以前の特殊教育対象の障害だけではなく、知的な遅れのない発達障害も含めて、特別な支援を必要とする児童・生徒が在籍する全ての学校において実施されるものです。

さらに、障害のある児童・生徒への教育にとどまらず、障害の有無やその他の個々の違いを認識しつつ、さまざまな人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となるものであり、我が国の現在及び将来の社会にとって重要な意味をもっています。

子どもたちの可能性を最大限に伸ばすことを目指して

町立小・中学校

通常の学級を含め、学校全体で特別支援教育が実施されています。

○特別支援教育コーディネーターと呼ばれる教員が、学校内や学校間、関係機関との連絡・調整を行ったり、保護者からの相談を受けたりします。

○校内委員会を設置して、支援の方法を検討するなど、学校全体で障害のある子どもを支援します。

通常の学級

算数・数学では、習熟度別指導を取り入れています。また、奥多摩町では、教育支援員を配置し、よりきめ細かな指導を行っています。

特別支援教室

通常の学級に在籍し、ほとんどの授業を通常の学級で受けながら、一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導を週１～８単位時間、特別な教室で行います。奥多摩町の小学校では、「あおぞら教室」の名称を用いています。

交流
共同学習

特別支援学級

障害の種別ごとの少人数学級で、障害のある子ども一人ひとりに応じた教育を行います。奥多摩町では古里小学校に、知的障害特別支援学級（たんぽぽ学級）と自閉症・情緒障害特別支援学級（ひまわり学級）、奥多摩中学校に、知的障害特別支援学級を設置しています。

交流

助言
援助

特別支援学校

特別支援学校とは、障害の程度が比較的重い子どもを対象として、専門性の高い教育を行う学校です。幼稚園から高等学校に相当する年齢段階の教育を、特別支援学校のそれぞれ幼稚部・小学部・中学部・高等部で行います。

障害のある子どもの教育についての専門性を生かして、地域の特別支援教育のセンターとして、近隣の小学校・中学校などからの求めに応じて助言・援助も行っています。

奥多摩町では、主に東京都立羽村特別支援学校と連携し、町の特別支援教育の更なる充実を図っています。

奥多摩中学校に自閉症・情緒障害特別支援学級を設置します

令和3年4月より、奥多摩中学校に自閉症・情緒障害特別支援学級を新設します。東京都教育委員会と連携を図りながら、昨年度から町教育委員会と奥多摩中学校の校内準備委員会が中心となって開設準備を進めているところです。

現在、奥多摩中学校には、知的障害特別支援学級を設置しています。知的障害特別支援学級では、必要に応じて特別支援学校の教育内容等を参考にしながら、小集団の中で、個に応じた生活に役立つ内容を指導しています。例えば、体力づくりや基本的な生活習慣の確立、日常生活に必要な言語や数量、生活技能などの指導です。また、特に中学校では、社会生活や職業生活に必要な知識や技能などを学習しています。

新設される自閉症・情緒障害特別支援学級では、基本的には通常の学級と同じ教科等を学習します。それらに加え、対人関係の形成や生活に必要なルールなどに関することを学んでいきます。

つきましては、奥多摩中学校において、自閉症・情緒障害特別支援学級に入級を希望される保護者の方を対象とした説明会を実施いたします。

✿保護者説明会✿

〔日時〕令和2年9月25日(金)
午後2時から
〔場所〕奥多摩中学校
〔内容〕
○東京都の特別支援教育
○自閉症・情緒障害特別支援学級の教育課程（自立活動等）
○他地区における自閉症・情緒障害特別支援学級の様子など

＊お問い合わせやご意見等ありましたら、左記までご連絡ください。

町教育委員会　☎(83)-2246
奥多摩中学校　☎(83)-2156

教育相談室より

【継続は力なり】

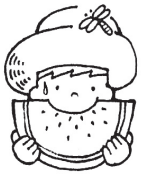
教育相談員　原島　富子

教育相談室は福祉会館の2階にあります。図書館の向かい側奥になるのですが、ドアはいつでも開いていますので、相談事が無くてもお気軽に足を運んでいただければと思います。

毎年夏休み前になると「ピーヒャラ」と、篠笛のさわやかな音色が福祉会館いっぱいに響きわたります。氷川小学校運動会で獅子舞が演技されるので、練習か披露してくれたのか、今年もいよいよ始まったなと、その音色に元気をもらっています。

実は、私も子どもの頃、地元のお祭りで吹かれるおはやしの笛の音色が大好きで、いつか吹いてみたいと密かに思っていたのです。しかし、父に習いたいと言い出せずその願いは叶いませんでした。今年は新型コロナウィルスの影響で、地域のお祭りはほとんど中止となり寂しい限りですが、小学校で伝統芸能が継承されていくことは、素晴らしいことだと思います。指導に携わってくださる先生方や大勢の方の支援に感謝をしていますし、同時に今後も続けていただきたいと願っています。

また、古里小学校、氷川小学校には「ロング遊び」という時間があります。異学年の子どもたちとの交流を目的として、縦割り班等遊びを工夫して行っているそうです。子どもたちの人数が減少し、各学年ともひとクラスという状況が続いていきますが、大勢の人との交流の中から育つ力があると思います。そして、異学年ということで上級生は下級生を優しく見守り、時には手を貸し導いています。運動会、学芸会、音楽祭等多くの行事の中から上級生の下級生に対するたのもしい姿を毎年見せてもらってきていたなと思います。ロング遊びの内容を企画するのも大変だと思いますが、今後も続けていただきたいと思います。



郷土奥多摩（文化財）

その18
木造蔵王権現立像

文化財保護審議会会長
石田充法

奥多摩町の文化財の中で、東京都の指定を受けている木像の有形文化財は今のところ1件です。今回はその小河内神社に祀られている木造蔵王権現立像とその周辺について紹介します。

（1図）

この像はもと金御岳神社（旧金御岳権現・明治の修験道廃止令により神社になった）の御神体でした。小河内神社は小河内貯水池建設のため水没した小河内全地域に祀られていた金御岳、温泉、箭弓、貴船、愛宕、熊野（青木）、御霊、加茂、御岳（留浦）の9神社を勧請して創建された神社です。この内、金御岳神社は河内地区にあり氏子も最多でした。この神社には九州地方の作と思われる尊像がありますが、同じ地区にあった普門寺の開山物外可什和尚は博多の崇福寺の住職を務めた人で、また、神社の古額「蔵王大権現」は五世直庵啓瑞和尚の筆になることなどから、普門寺との浅からぬ関係がうかがわれます。

蔵王権現は修験道（山林や鍾乳洞にこもって秘密神呪を修行し、霊験を証得しようとする一派で、神道などを混交したものです。諸宗に通じる立場をとり、さまざまな教義・儀礼を混用しています。また密教思想に近いこともあり真言宗や天台宗に関係しています。三峰山、一石山、大岳山、御岳山などの権現社は修験者の拠点となっていました。）の本尊で、密教と山岳信仰の結びつきから生まれた、インドにも中国にも見られない日本独特の垂迹神（仏・菩薩が、衆生済度のために日本古来の神の姿に権にとって現われた神＝権現）です。また、奈良時代に役小角＝役行者（修験道の開祖）が奈良・吉野の金峰山での荒修行によって感得した権現で、平安時代以後、修験道の発達につれて全国的に信仰されました。形像は、片足を高く上げ、片手を振り上げる躍動感のある姿で、相貌（形相）は怒髪忿怒相（頭髪を逆立て激しく怒った姿）です。（左図参照）

小河内神社の像（1図）は一木造りで、差し寄せた両腕が欠け、（金御岳神社に祀られていたときはまだ両腕はついていた。2図）右足の上げ方も少なく、形相を含めややおとなしく感じます。左腕に弘安7年（1284年）修復の墨書銘があり、都有形文化財に指定された町内には数少ない平安時代の優れた造形の木像といえましょう。金御岳神社には、この尊像の外に数体の蔵王権現が祀られてあり、鳥取の三仏寺奥ノ院と同じく、1つの堂宇に同じ尊格を複数祀ることは極めて異例で、蔵王権現信仰の謎の1つといえます。

現在小河内神社には平安時代から鎌倉時代にかけての作とみられる20体を超える尊像が祀られており、神像・仏像・武人像・女人像・童地蔵等多彩で、奥多摩町の文化財として貴重な尊像群といえます。

（2図）